

令和 8 年度第 1 回栗東市総合教育会議

開催日時 令和 8 年 8 月 1 7 日 (月) 9 : 2 5 ~ 1 1 : 3 5
開催場所 4 階 第 1 委員会室
議長 市長 竹村 健
出席者 教育長 今井 義尚
教育長職務代理者 内記 一彦
教育委員 田中 和子
教育委員 多田 玲子
教育委員 清水 厚芳
事務局出席者 政策推進部長 (山田)、シティプロモーション推進秘書・広報担当課長 (俣野)、
シティプロモーション推進課秘書・広報担当係長 (尾瀬)
教育部長 (中川)、教育総務課長 (馬淵)、学校教育課長 (田中)
生涯学習課長 (上村)、生涯学習課係長 (竹綱)、書記 (平井、多田)
ゲストスピーカー 栗東市 PTA 連絡協議会会長 福本 英子
栗東市 PTA 連絡協議会事務局長 山内 傳
栗東市立金勝小学校長 中川 章子

会議を傍聴した者 一般傍聴者 0 人 市政記者等の傍聴者 0 人

シティプロモーション推進秘書・広報担当課長

定刻になりましたので、ただいまから「令和 8 年度 第 1 回 栗東市総合教育会議」を開会いたします。皆様方にはご多用の中、ご出席をいただき厚くお礼申しあげます。

さて、総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 4」で定められており、市長と教育委員会が栗東市の教育課題や目指すべき姿を共有して、連携して教育行政を推進しようという会議でございます。

本日の会議は、「学校・保護者・地域の新たな連携について」を議題とさせていただき、皆様と意見交換をしていきたいと存じますので、よろしくお願い申しあげます。

では、市長より挨拶をお願いします。

議長：竹村市長

本日は大変お忙しいところにも関わらず、令和 8 年度第 1 回栗東市総合教育会議にご参集くださりありがとうございます。また、平素より栗東市教育行政全般にわたりまして皆様方には大変お世話になっておりますことお礼を申し上げたいと思います。

学校は今、夏休み期間中で、子どもたちは普段できないことを経験していることと思います。

暑さは相変わらずですが、去年よりは少しましかと思しますので、私といたしましては、できるだけ子どもたちが中で遊ぶよりも、外で日焼けした真っ黒な顔色で、色々なところで遊ぶ姿などを見たいなと思っているところです。

夏祭りなどが色々な地域で行われ、私も地域の方たちに呼んでいただけて行くことも多くあります。今、地域の中で子どもたちと大人が顔を合わせる機会が少ない中で、夏祭りというのが一つの起点になるのではないかと思っております、地域のコミュニティの中でこのような取り組みは行政としても重要なものとして位置づけていくことが必要だと思っております。

本日は地域と学校の新たな連携がテーマのひとつでございます。学校の置かれている状況などを鑑みますと、行政だけでは支えることが難しくなっています。あるいは学校の先生だけでは対応しきれないことが顕在化している状況にあると思っております。そのような中で、PTA や地域の力を借りながら学校運営をうまく進めていくことが、市の大きなテーマ、また教育の中でも大きなテーマであると思っております。

本日はそういった意味でゲストスピーカーの方にもご指導いただいて、普段からお世話になっている方々の実践例などを拝聴しながら、今後の見通しにおける地域と学校のあり方を工夫していきたいと思っております。

また、前回の総合教育会議におきましては、不登校対策や部活動の地域展開など、議論いただいたことを政策に落とし込むことができましたので、今日の会議も、会議だけで終わるのではなく、この会議を起点に何かに繋げていく、来年度以降の政策につなげていけるような会議になりますことを冒頭お願い申し上げましてご挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

シティプロモーション推進秘書・広報担当課長

会議の進行につきまして、「栗東市総合教育会議設置要綱第4条」の規定により会議の議長を市長にお願いいたします。

議長：竹村市長

それでは、早速ではありますが、議事の進行を務めさせていただきますので、はじめに、「①現在のPTAを取り巻く課題」について、説明をお願いします。

(学校教育課長より説明)

(福本氏より説明)

議長：竹村市長

ありがとうございます。PTAの取り組みの現状を赤裸々にお話しいただきました。特に私自身、子どもが30代ということもあり、PTAの現状がよくのみ込めていないところがありますが、先

ほどから「不信感」という言葉が度々出てきています。現在は PTA に対してネガティブな感覚の方が多いのでしょうか。

山内氏

多いです。私は平成 30 年度に治田小学校の PTA 会長をしていました。当時、同意書の話はそれほど出ていませんでした。難しい活動をしているわけでもなく、負担を減らそうと思って私は活動をしていましたが、それでも退会したいという保護者はいらっしゃって、その動きがどんどん大きくなり、数年を経て今、草津市、守山市、野洲市では PTA 自体がなくなっているというような環境にあります。私としては PTA に意義を持たせて改変していきたいという思いをもって活動していますが、やはり関係が希薄になってきているこのご時世、このような任意団体の存続というのは難しくなっていくのではないかと考えています。

議長：竹村市長

今、自治会のあり方も変わってきています。自治会には入らないがゴミ捨て場は利用させろという人がいたりするなど、義務と権利のバランスがうまく取れていた時代から、ある人から見れば義務を果たしていない人が権利を主張しているという状況が多くなってきました。お話を聞いていますと、PTA も同じような風潮があると感じました。栗東市の PTA 連絡協議会として、こういうふうにしていくという明確なものは今模索されているのでしょうか。

福本氏

模索した中で、まずは不透明感をなくすために同意書をもって加入・非加入をきちんと本人の意思で決めて PTA に参加していただく、同じ方向を向いて活動していただこうと考えています。今までは入学と同時に入会することが、暗黙の了解となっていました、今はそれをおかしいと声を上げる方が多くおられます。

議長：竹村市長

今までは有無を言わず入会していたものを、入りたい人は入ってくださいという任意の形を説明しながら、そのように変えていこうというところでしょうか。

福本氏

そういう流れにあります。ただそれでは、どうしても役員の選出が難しくなるのではないかと危惧しています。

議長：竹村市長

ただ今、PTA の現状等をお話いただきました。本日は PTA をどのようにしていくのかというテーマではありませんが、これまで学校を支えていただいた PTA の方のお話を聞いた中で、の

ちほど金勝小学校の取り組みもお話しいただきますが、まずは現状について質疑等あればお願いします。

清水委員

PTA が行っている事業は、親の PTA 加入・非加入によって、子どもにメリット・デメリットはありますか。

福本氏

親が PTA 会員であるか非会員であるかは、子どもたちには関係ありません。私自身、PTA 会員で、その学校の子どもたち全員に対して協力しますという立ち位置と、お金を子どもたち全員のために使ってくださいということで PTA 会費を納めていますので、子どもたちは親が会員か非会員かの付度はなく、そこはメリットもデメリットも発生しないと私は思っています。すべての子どもたちのための団体です。

清水委員

PTA からの卒業記念品は、非加入の家庭の子どもにも渡されるということですか。

福本氏

そうです。それはどうなのかというお声も毎年いただきます。私が色々なところで説明させていただくのは、例えば、私は日本野鳥の会の会員です。日本の鳥たちのことを考えているから会員になりました。そしてその鳥たちのためにお金を使っていたきたいので寄付をしています。そのお金を役員がどのような形でどの鳥に向かってどのような活動をしているかまでは、事業報告でしか受け取っていませんが、それでも構わないので会員になっています。PTA に関しても同じ意識を持っていただけたらと思っています。

清水委員

分かりますが、入会した方や賛助してくださる方のお金で活動の予算は決まります。役員が忙しく、仕事もして PTA 活動もするととなると、加入・非加入で変わらないのであれば、入らない人が増えるのではないのでしょうか。非会員である保護者の子どもにも等しくサービスが届くのであれば、入らない方が良いのではと考える方が多いのではないかと思います。

福本氏

モラルの問題ですね。私は中学校の役員をしています。最近は活動の内容を理解した方の再入会が増えてきています。私は、栗東中学校に加入・非加入が導入された時に上の子どもが入学しました。当時、PTA 会員は 1 割にも満たない状態でしたが、今は役員に当たることもない、事業も少なく負担もなく、できる時にボランティアの形で参加してもらおうという方向性を取ったこ

とで、PTA の良さを理解し、再度会員になる方が段々と増えて会員数は右肩上がりになっています。詳細を知らない人から、色々な批判があるのだと思います。

清水委員

PTA があるのは知っているけれども、実は入らなくてもよいという認識の方が年々増えているように思います。

福本氏

今はネットで検索すれば、同じような情報が出てきます。親としての感覚では、自分で活動はできないが、せめてお金だけでも何か子どもたちのために使ってほしいという善意の気持ちで入会となればよいのですが、全員がそういう気持ちではないと感じます。

清水委員

PTA が行っている子どもたちのための活動を公表すれば、なるほどと思ってもらえるのではないのでしょうか。

議長：竹村市長

卒業記念品以外ではどのような活動がありますか。

福本氏

環境整備があります。今までは親子で奉仕作業という形で PTA 会員を集めて皆でしていましたが、昨今の夏の暑さ、土日は子どものスポ少や、土日に仕事がある方もおられ、先生の働き方改革で活動が制限される中で、PTA 会費で活動自体が外注となったケースもあります。ただ、外注も値段が上がっているため、それならばもう一度皆でやった方がいいのではないかと、毎年揺れているところです。

議長：竹村市長

一人一人に渡る卒業記念品と、学校全体を良くしたいという環境整備では、活動の方向性が少し違うように思います。非加入の保護者の子どもにまで卒業記念品が渡ると、払っている人からするとなぜなのかと感じると思います。卒業記念品は必ず PTA がやらないといけないのか、子どもに必ず渡すものでなければならないのかという議論はないのでしょうか。

福本氏

ありました。中学校では個人に渡す形にはせず、子どもたち全体に学校で使えるものに切り替わりました。小学校で私が関わってきたところでは、先生と話し合い、学年費から引き落とす形で、6 年生の卒業記念品にあらかじめ保護者からお金を回収して渡しました。PTA からではなく、

学年費から出すよう、移行していただきました。

議長：竹村市長

PTA に入ることが当たり前であった時代から、色々な考え方が出てきた中で、PTA に入っているメリットを出す必要がある時代になってきたのでしょうか。

山内氏

メリット・デメリットはよく言われますが、そもそもメリット・デメリットというものではありません。元々の理念に立ち返って、保護者が学校や子どもたちにしてあげたいことをする団体に戻りたいと思います。

福本氏

やらなければならないとなると、今の保護者からは抵抗を感じるので、自主的に活動するといふところを大切にしていきたいと思います。

議長：竹村市長

他にご質問等ありませんか。

次に金勝小学校の取り組みをご説明いただきます。

(学校教育課長より説明)

(中川校長より説明)

議長：竹村市長

ありがとうございました。金勝小学校のコミュニティスクールの取り組みをご紹介いただきました。大変素晴らしい取り組みであるため、このような取り組みが他の学校にも広がって欲しいと思いました。今後、コミュニティスクールを栗東市としてどのように進めていくかについてはまた議論いただくとして、金勝小学校の取り組みについて、皆さんからご質問等ありましたらお願いします。内記委員いかがでしょうか。

内記委員

昔、運営協議会に参加していましたが、現在は一歩進んだ形でコミュニティスクールをやっていると思いました。コミュニティには色々な方がおられます。退職して家にいる方もいれば、退職しても忙しくて参加できない方もいます。ボランティアを通じて学校を助けたいという人で成り立っていますので、参加する・しないは気持ちの問題もありますが、少しでも学校を助けたいという人を増やしていければよいなと思いました。本来は子どものためにということ

ですが、子どもが卒業すると何もしないなど色々な考え方の人がいます。大変かと思いますが、引き続き頑張っていただきたいと思います。

田中委員

金勝小学校の取り組みは素晴らしいと思いました。他の学校にもそれぞれの良さがあります。各学校長が考えて、栗東市の小学校が歩調を合わせながら、全ての小学校で取り組んで欲しいと思いました。以前、学校は地域の文化の中心でした。学校運営協議会が根付くと、地域の文化の発信の位置付けになると思います。子どもたちが自信をもつてのびのびと自分の能力を存分に発揮できるような協力体制を構築できればよいなと思いました。PTA については目先の損得で考える方が多いことが非常に残念です。新しい形の PTA ができることを期待しています。

今井教育長

コミュニティスクールは学校にとってありがたい制度です。金勝っ子応援団に参加者してくださっている方はどのような感想をお持ちですか。また、どういった方が学校運営協議会に参加されているのでしょうか。

中川校長

参加してくださった方は、子どもの元気な姿を見ることができて良かった、今後も大事にしていきたいと思ってくださっています。特に金勝は地域や卒業生の方が多いため、学校や地域に愛着を持ってほしいと思われる方が多くおられます。忙しい中来ていただき、にこやかに接していただいていますので大変ありがたく思います。

どのような方が来てくださるのかと言いますと、今は、学識経験者、地域企業、コミュニティセンターのセンター長、自治会長、園の先生、PTA の代表、ボランティアの代表、田んぼの先生等すべて金勝在住の方にお世話になっています

議長：竹村市長

課題のところで、教務主任の負担になっているとのことですが、それは立ち上げの時なおかつランニングの時なのか、立ち上げは大変であるがある程度乗り越えれば自走できるのか、その辺りはどうでしょうか。

中川校長

後者に期待しています。自走できるようにしていきたいですし、そうなると思います。そのためには、教務主任自身が担うということを考えていかなければなりません。というのも次期学習指導要領で大きくカリキュラムを触らなければならない主体が教務主任です。教務主任自身が地域のことを知っておき、地域のどこに子どもたちが学べるリソースがあるのかを考えながらカリキュラムに落とし込む必要があることから、教務主任とともに働いてくださる方を探す必

要があります。そうすることで自走していくことができるのではないかと考えています。立ち上がりで、校外学習に行ったり、ゲストティーチャーをお呼びするのも、担任にはかなりの負担をかけていますが、自分たちでやりたいのであれば地域のことは知っておかなければなりません。そうすることで次の教務主任や次の地域連携者を育てられるため、やりたいという方にはやってもらっています。そうすることで一定の関係性を築くことができますが、軌道に乗せるまでは結構なエネルギーが必要です。

議長：竹村市長

教務主任の先生に補ってもらわなければならないので、そこは避けて通れない道だと思います。教務主任とともに働いてくださる方はどのような人がよいのでしょうか。

中川校長

やはり地域の状況や学校の実情を知っている方がよいと思います。というのも、教務主任が地域の方からたくさんのオーダーをいただいているのですが、子どもたちにとっては内容が難しかったり、カリキュラム上、取り入れることが難しい等の理由で、お断りしているという状況があります。教務主任に代わってそれを丁寧に伝えてくださる、ある程度地域の方にもお話していただける方、学校の裏事情の話をしながら、「こう言えばおそらく先生が受けてくれる」ということを上手く伝えられる、そのような方が教務主任と伴走して下さったら、とても良い授業ができると思います。先生たちが「自分たちだけでは出来ませんでした」と言っていたことが何度もありましたので、そこをうまくマッチングしてくださる方がよいと思います。

多田委員

栗東中学校で、これまで学校運営協議会やPTAに参加するなど、色々なところで関わらせていただきました。今は、保幼小連携のコーディネーターをしていることもあり、学校の大変さを実感しています。子どもたちは横のつながりが弱く経験不足だと感じていますので、地域の方に入ってもらい色々な経験をさせていくことはとても大切であると感じました。園で経験するようなことをもう一度経験させてみよう、休み時間をうまく使って先生ではないコーディネーターの私たちがもう少し何か経験させてみよう、ということを考えている中で、長休み時間に地域の方の目が入ることで、いじめなどを防ぐことができたり、居場所がないと感じている子どもに大人が関わることで行きやすくなるということもあると思います。とても良い取り組みだと思い、わくわくしながら中川先生のお話を聞いていました。私自身も小学校運営協議会に呼んでいただいた時、何をするのだろうと思いましたが、色々な業種の方々とお話しさせていただくと、こんなふうに学校に関わっておられる方もいると教えていただきました。声を掛けてくれたらよいのと思っている地域の方もおられますので、そういった方々と皆で笑顔になっていけたらと思います。

清水委員

先生に新たな負担が生まれることはよくないと思いますが、時間が掛かることは仕方のないことだとも思います。

議長：竹村市長

ありがとうございました。金勝小学校の取り組みを受けて、次の議題である「今後の栗東市の方針について（コミュニティ・スクール等の指針スキーム）」に入っていきたいと思います。説明をお願いします。

（学校教育課長より説明）

議長：竹村市長

報酬がどうこうではなく、子どもたちのために 365 日無償でも頑張りたいという方に、どうすれば行き着くのか、そこが大きなテーマであると皆さんの話を聞いて思いました。金勝小学校の今後の予定や栗東中学校で進めてきたことを、他の小学校・中学校にも展開していきたいと教育委員会は考えていますので、これらが形だけのものではなく意味のあるものとしていくためにご意見等あればお願いします。

今井教育長

コミュニティスクールは以前から進めていますが、栗東市は遅れており栗東中学校だけでした。他市の例を見ていると、形式的にはやっても実態が伴っていないところもあるのではないかと思います。栗東市は学校運営協議会と地域学校協働活動の両方とも実質を伴ったものとしていくため、教育委員の皆様からご意見をいただければと思います。

清水委員

現状と課題の整理のところについて、現場の先生からすると現状で手いっぱいだと思います。推進スキームとなっているため、学校に全て任せるのではなく、導入の課題を行政としてどのように後押していくかを考えていかなければ具体的な形にはならないと思います。仕組みが具体的にあるのであれば教えてください。

学校教育課長

現在は管理職に対して、県からコミュニティスクールアドバイザーを呼び、研修を行っています。

清水委員

はじめは小さくからですが、現場の負担を考慮しながら段階的に進めていくしかないと思います

した。

議長：竹村市長

他にありませんか。

中川校長

導入にあたり、清水委員がおっしゃったことはとても大切です。私自身昨年6月以降、先生には迷惑をかけない、はじめは小さく、それを専門にやっていくという形で導入しました。そうであれば先生たちは、また自分たちがやらなければならないのかと感じてしまいます。依頼文から全て自分でコーディネートをして、外部の人を呼んできました。先生方は一度火が付くと自走してくれますので、校長や教頭、教務主任がそこまで持つていく必要があります。金勝小学校では、私たちがコーディネートして子どもたちを多様な人たちに会わせて自分で考えさせるということを進めました。先生方は子どもたちのためなら頑張りたいと顔を上げてくれますので、そこは管理職の頑張りどころだと思いました。

議長：竹村市長

学校の先生の思いもあるため、地域からの押し付けになってはいけません。先生から、こういうことをやりたい、子どもたちに地域のことを学ばせたいが、地域との縁がないのでそこを助けて欲しいと言っただけでないとなかなか次に進めません。幸い栗東市は学区それぞれに地域振興協議会がありますので、そういったところにご相談いただくと、つながりができる可能性があります。まず学校の中で主体的に地域にご相談いただいたり、市に言ってくださったりすると、我々も地域の人を紹介しなければとなります。学校の先生は子どもたちに地域のことを学ばせたいという思いは少なからずもっておられますので、学校の課題を地域と共有してもらうことが大事であると思いました。そういったところも含めてご意見・ご質問はありますか。

多田委員

次の学習指導要領で割合が増える探求の部分というのは、学校が地域の方をうまく利用していただけたら膨らんでいくと思います。私も授業を見させてもらっていますが、授業についていけない子どもたちが多く、こんなにも大変なのかと実感しました。そのような中で地域の方たちが学習支援という形で新しいことを探求して教えてくださるのはとても良いと思いました。私もコーディネーターとして提案していますが、先生たちはまず授業のことが頭にあるため、私たちが言ったことを、どこまでどのように受け入れたらよいか悩んでおられます。また、私たちとうまくやり取りをしたいけれども、コーディネーターと先生の空いている時間が合わないために校長先生を介して話をするとうまく連携が取れないこともあります。現場の先生と話をする必要がありますが、そこがとても難しいと感じています。地域の方たちがやりたいと思っていることと、先生方がこういうことをやって欲しいと思っている部分が微妙にずれてしまうと、なかなかうまく

く回っていきません。一度回ればうまく回りだしますが、最初が難しいと思いました。

議長：竹村市長

学校で乗り越える課題がありますが、乗り越えたあとに地域との連携があります。一般の人は学習指導要綱の内容を知りません。そのため、地域の素材・宝を学校でも教えましょうという流れがあり、これからの学校教育は地域とともに歩む時代になってきているということを発信し、地域の人にも理解してもらうことも重要だと思います。たまたま金勝の場合は、創立 150 周年記念を起点に、地域の色々な人が関わってくださいました。元々金勝村で一つの小学校だったこともあり、より愛着というものを進めやすいと思いますが、そのような素地がなければ、金勝と同じようにはいかないと思います。

今井教育長

子どもたちに学ぶ力をつけさせるためには、先生が学びに向かう姿勢を身につける必要があります。そしてその先生のやる気を見つけるのは管理職だと思います。学校というのは、色々な対応に追われ受け身がちになってしまいます。自分たちでこういう学校を作っていきたい、うちの学校にはこういう特色があるということを地域へ発信するにも、色々なところに働きかけなければなりません。校長自身が練って発信し、そしてその姿勢を先生方は見ておられると思いますので、それがまた子どもたちを変えていくことに繋がっていきます。そのため、校長先生のリーダーシップというものが学校を作っていくということになると思います。

内記委員

市長や教育長が言われたとおりです。やはり学校が主体となって地域の方に説明していかなければ、なかなか協力は得られないと思います。

田中委員

各学校には様々なサポーターの方がおられます。学校にはそれぞれの特質があるため、先生も交えて課題を共有し、足りないところをしっかりと補っていく必要があります。校長はやる気があるとは思いますが、後手に回って対応ばかりにエネルギーを使っている学校もあるかもしれません。何をするにも根底には人と人との繋がりがありますので、そこを大切にしていくと栗東市全体が上がっていくと思います。

議長：竹村市長

中川先生をはじめ、PTA の方から貴重なご意見をいただきありがとうございました。地域との関わりとしてコミュニティスクールは良い取り組みであると思いますが、形骸化した会議ばかりでは意味がありません。目標値に固執するのではなく、人と人の繋がりにはタイミングがあるため、形だけを追い求めず門戸を広げていつでも受け入れる、スタートできるようにしておく

いのではないかと思いました。今後も皆様方から様々な視点でご助言等いただければと思います。

シティプロモーション推進課秘書・広報担当課長

本日は、「学校・保護者・地域の新たな連携について」、委員の皆様には貴重なご意見やご提案をいただき、誠にありがとうございました。

事務局といたしましても、皆様のご意見やご提案を参考としまして、これからも、学校・保護者・地域が密に連携し、地域全体で課題を解決する仕組みづくりを進めてまいりたいと思います。

それでは最後に、市長より閉会の言葉をいただきたいと思います。

議長：竹村市長

本日は大変お忙しいところ第1回総合教育会議にご参集賜りまして、貴重なご意見をありがとうございました。子どもたちのためにどうすればよいかというところが肝心です。地域の方々の多くは、子どもたちが色々なところで学び、自分たちの地域に誇りを持って欲しいと思っておられます。ぜひ前向きに考えながら、コミュニティスクール化に向けて形だけでなく実を取るような制度にしたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻をいただきますことをお願い申し上げまして閉会にあたりましてのご挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございました。

閉会宣言 11：35